



アマリリス

36 編は端書きに「指揮者によって。主の僕の詩。ダビデの詩。」とあります。18 編も同様の端書きがあります。「主の僕」とは預言者たち、信仰の民、イスラエルも指しますが、モーセの肩書です。ダビデにもその肩書が与えられたのでしょうか。イザヤが何度も預言したように、「主の僕」には、背いた者のために執り成す苦難の僕、主イエスを私は思い描きます。

詩人は神に逆らう者の心を手取るように知っています。神に逆らう者は、罪が語りかける悪事、偽り、不正に気付かず、それを受け入れている。なぜなら、自分を偽っているからだ、第一連では、人の罪を問題にしているのです。

2 連では全く逆に、神の慈愛をたたえています。

主よ、あなたの慈しみは天に／あなたの真実は大空に満ちている。／恵みの御業は神の山々のよう／あなたの裁きは大きいなる深淵。主よ、あなたは人をも獣をも救われる。／神よ、慈しみはいかに貴いことか。あなたの翼の陰に人の子らは身を寄せ あなたの家に滴る恵みに潤い／あなたの甘美な流れに渴きを癒す。／命の泉はあなたにあり／あなたの光に、わたしたちは光を見る。(36:6) 親鳥の翼のような守りの内に養われ、命の水を受け、希望の光に生きると信仰の喜びを吐露しています。

3 連では神に逆らう者から免れるようにと求めています。そして 悪事を働く者は必ず倒れる。彼らは打ち倒され／再び立ち上がることはない(36:13) と、結論付けています。イザヤが預言した「主の僕」多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのはこの人であった(イザヤ 53:12) とは距離があります。「讚美歌 21」128「悪は罪人の」はジュネーブ詩編歌を取り入れています。

参照 https://www.youtube.com/watch?v=wr_J0wewh90&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=37&t=0s 聞いてみると曲が 294「ひとよ、汝が罪の」とよく似ています。294 はキリストの贖いを歌ったハイデン(Sebald Heyden 1494-1561)の詩に、グレーター(Matthaus Greiter 1490?-1550)による曲がついています。ジュネーブ詩編歌とは休止符やリズムなど、異なる記譜法を採用しているため、異なる曲としているとのことです。参考までに <https://www.youtube.com/watch?v=7RULlohnSLc>

詩人は常に神を「あなた」と呼んできましたが、37 編の詩人は 主に自らをゆだねよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる(37:4) と、父が子をあなたと呼び、諭すかのように あなたの道を主にまかせよ(37:5) と、勧めているのです。37 編はそういう意味で箴言を思わせられます。因果応報、自業自得という仏教用語をも彷彿とさせます。詩人は、生の基本は 主に自らを委ねる(37:4) であり、また、具体的な願いとは この地に住み着き、信仰を糧と(37:3) する生き方、人生の基本を信仰に置くのが、信仰者であると説いているのです。同時に、生活の安定をも望みます。しかし、その現実には、悪事を謀る者、不正を行う者、繁栄の道を行く者、悪だくみをする者が、横暴を極め、借りたものも返さず、野生の木のように勢いよくはびこっています。そのため、いらだち、羨み、憤りにかられます。けれども詩人は、時が経てばそのような者は断たれ、消え失せると言います。沈黙して主に向かい、持ち物は僅かでも権力者の富に優る。主が備えて下さる道を一步一步進むように。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。(37:24) 主に従う人は地を継ぎ／いつまでも、そこに住み続ける。(37:29) 主に従う人は口に知恵の言葉があり、その舌は正義を語る。(37:30) 無垢であろうと努め、まっすぐに見ようせよ。平和な人には未来がある。(37:37) 主を避けどころとする人を、主は救ってください。(37:40) と、主に信頼する時、慰め深く、力強い励ましを得ると言います。「讚美歌 21」は 528「あなたの道を」を 37 編と関連付けています。ルター以後最大のドイツの讚美歌作者と言われるパウル・ゲルハルトの詩にハイデンの旋律を配したものです。参照 <https://www.youtube.com/watch?v=LrSHF48KcG0>